

令和5年度  
全国学力・学習状況調査、丹波篠山市学力・生活習慣状況調査より  
丹波篠山市立八上小学校

全国公立の中学校3年生及び小学校6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査（全国調査）、5年生を対象に実施された丹波篠山市学力・生活習慣状況調査（市調査）の結果を分析しまとめました。

テストの結果だけで学力を測定することはできないことも事実ですが、この結果を授業や学校生活の工夫改善、家庭学習の充実につなげていきたいと考えております。保護者の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

### (1)【算数】

6年生では、経年変化を見ると着実に学力がついていることがうかがえます。その中でも「図形」の領域で概ね良好な結果が見られました。特に、正三角形の意味や性質について問う問題で良好な結果が見られました。その一方、「変化と関係」の領域で課題があることが分かりました。5年生では「データ活用」の領域で概ね良好な結果が見られました。その一方、「図形」の領域で課題があることが分かりました。

算数の理解促進のための手だてとして、四則計算の基礎的な練習問題に取り組む一方、文章問題など発展的な問題について、丁寧に問題を読み解く時間を設け、友だちと学び合うことを行っています。

### (2)【国語】

6年生では、経年変化を見ると着実に学力がついているということがうかがえます。そのなかでも、「情報に関する事項」「話すこと・聞くこと」で概ね良好な結果が見られました。その一方、「書くこと」の問題に課題があることが分かりました。5年生では、「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で概ね良好な結果が見られました。その一方、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」の問題に課題があることが分かりました。

「書くこと」に関して、ある程度の長さの文章を書くためには、何をどのように書くのかという見通しを持つことが必要になります。その見通しを持てるようにするために、日頃の授業において条件をつけて文章で記述する機会を設けていきます。

子どもたちの学びの地図である学習指導要領（10年に一度改定）には、「学びに向かう力、人間性など」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」の3つの力をバランスよく育むことが理念としてあげられています。変わりゆく時代、その変化に合わせて学校での学びも変わってきます。また、今の子どもたちが大人になる頃、求められる人材も今とはちがったものになっていることが予想されます。これからの時代を見据え、「何を学ぶか」ではなく「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」ということを重視して、生きる力を確実に育むことをめざしています。

本校では、学校教育目標に「自ら考える児童の育成」という考えを掲げています。どの教科においても、基礎基本を充実させるとともに、自分事として考え、友だちとの関わり合いの中で学んでいくことに継続して取り組んでいきます。今後もご家庭と協力しながら子どもたちの学力向上に取り組んでまいります。ご家庭でも子どもたちの学習のサポートをよろしくお願いいたします。

